

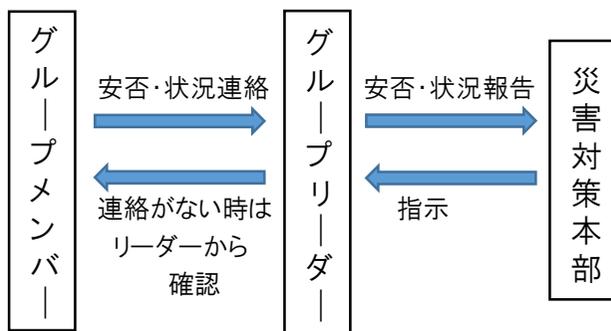
一般社団法人 石川県助産師会

防災マニュアル

平成 30 年度版



安否確認グループと連絡ルート



電話が繋がらない時はメールやLINE、災害時伝言ダイヤルなども活用しましょう

グループリーダー名簿

あなたのグループは……？
姓の頭文字が含まれるグループです。

- (あよ)G 石田美幸:090-2128-0727
サブ 川島真希
- (いら)G 植田幸代:090-3888-5069
サブ 柏木栄子
- (か)G 山岸和美:090-9769-1959
サブ 瀬川紀子
- (た)G 川久保佳代:090-9765-5899
サブ 北村牧子
- (うきこしもわ)G 北村牧子:090-2090-5871
サブ 植田幸代
- (さす)G 塚脇京子:090-4328-4272
サブ 浜辺千賀子
- (とな)G 浜辺千賀子:090-5177-4123
サブ 吉川由起子
- (にのは)G 川島真希:090-8966-0576
サブ 山岸和美
- (ふまむ)G 瀬川紀子:090-2370-8910
サブ 石田美幸
- (せそひみ)G 吉川由起子:090-1394-5332
サブ 小林亜矢
- (おほ)G 柏木栄子:090-2344-4410
サブ 川久保佳代
- (や)G 小林亜矢:090-2833-7326
サブ 塚脇京子

〈例〉

近藤さん⇒姓の頭文字が「こ」なので(うきこし)グループ
原田さん⇒姓の頭文字が「は」なので(のはふ)グループ

石川県助産師会の緊急連絡方法

○グループリーダー名簿でご自分のグループとリーダーをご確認ください。

○石川県で震度5強以上の地震発生
または、石川県内の地区に避難勧告が出た災害、事件があった時、

あなたの安否をグループリーダーもしくはサブリーダーに連絡してください。
連絡ができるようになってから大丈夫です。

私は()グループ
リーダー () 連絡先
()
サブリーダー ()
()

○お願い

上記連絡先を必ずご自分の携帯電話に登録してください。
このマニュアルがいつでも見られるよう携帯してください。

【災害時伝言ダイヤル 171】

自宅の電話や公衆電話から利用できます。
音声メッセージに従い、操作します。
*毎月1日と15日に体験できます。
一度体験しておくで慌てず利用できます。

【災害用伝言板・災害用音声お届けサービス】

携帯電話やスマートフォンから利用できます。
携帯電話会社によって操作方法が違うので確認しておきましょう。
体験できる期間もあるので家族間などで体験してみてください。

一般社団法人 石川県助産師会

■住所:〒920-2151

白山市知気寺町29-1

■電話:080-3740-4512

(子育て・女性健康支援センター石川)

■メール:info@ishikawa-midwife.com

ishikawa-mw@softbank.ne.jp

(子育て・女性健康支援センター石川)



石川県助産師会では、会員自身はもちろんのこと、妊産褥婦とその家族や大切な人々の“いのち”そして“安心・安全な生活”を守るために、防災マニュアルを作成しました。会員はこれを熟読して、日常的に災害に備え、また災害発生時に迅速かつ確かな行動がとれるように心がけましょう。

I. 日常的な備え

- 1. 個々の防災力** : 会員は自分自身の備えを十分に行い、自助力を高めておく。
- 2. 妊産褥婦への周知** : 会員は日頃から、妊産褥婦やその家族の災害への備えに関心を払い程度に応じて具体的に防災情報を提供する
- 3. 訓練と研修** : 会員の災害に備える力や災害時の母子を支援する力を身に付けるために、安否確認訓練や災害研修等を年1回実施する。
- 4. 安否確認方法** : 会員は自分のグループのリーダー(or サブ)に安否を知らせ、リーダーはその旨を災害対策本部に報告する。
- 5. 連携** : 当助産師会は、緊急時に備え、日頃より関係諸機関との連携、他施設助産師との交流を図っておく。
- 6. 災害時物品の準備** : 助産師ゼッケン等、災害時必要物品を事前に検討し準備する。
- 7. 災害時支援体制の準備** : 災害の種類・程度により、支援体制を整える。
- 8. 防災マニュアルの点検** : 当助産師会の防災マニュアルは、年1回検討する。

II. 被災直後の対応

- 1. 発災の定義** : 石川県で震度5強以上の地震又は、石川県内の地区に避難勧告が出た災害、事件時とする。
- 2. 災害対策本部**
 - (1)連絡が可能となるまで、各自、身の安全を守る
 - (2)発災後、災害対策本部を設ける。
 - (3)災害対策本部長は、助産師会会長とする。(会長が被災した場合は副会長とする)
 - (4)災害対策本部の場所は、助産師会事務所とする。
 - (5)本部長は、連絡が可能になり次第、役員と連絡をとり、今後の対応を検討する。
- 3. 安否確認** : 会員は発災後グループリーダーに連絡を入れる。リーダーは災害対策本部に連絡を入れる。安否確認については、本部長と災害対策委員がとりまとめる。
- 4. 他機関への支援要請** : 発災後の状況をみて、各諸機関と連携を行い、助産師の派遣を要請する。また、日本助産師会の災害 ML 等を通じて災害ボランティアや支援者に情報を提供する。
- 5. 助産師として行う支援** : 避難所の女性への支援、妊産褥婦への安心した場の提供と支援、支援物資の受領と配布など、助産師としてできる支援を提供していく。

III. 中・長期的な支援

- 1. 中・長期的な支援と支援の継続** : 災害弱者である妊産褥婦の安全安心のために、支援団体との交渉、助成金への応募などを行い効果的な支援を継続していく。(災害後の分娩・産褥入院、母乳育児相談の費用の補助助産師サロン 等)
- 2. 支援の記録と評価** : 当助産師会の災害支援の記録や評価を行い、今後の活動に活かしていく。
- 3. 災害時の母子救護所の設置の検討** : 災害時の母子避難所の設置にむけて活動する。

IV. 他県被災時の支援体制

- 1. 支援体制** : 他県で大規模災害が発生した際には、過去の災害時の経験知を活用し、災害サイクルに応じた支援活動のあり方を十分に検討する。その際、日本助産師会との連携を十分に行う。
- 2. 支援物資の調達・発送** : 被災地のニーズを十分に考慮して、妊婦用・褥婦用・新生児用の支援物資を調達して発送する。

ミニ非常袋

あなたなら何を入れますか？



軍手



手ぬぐい



ミニ懐中電灯



非常食



マスク



アルミブランケット



使いすてカイロ



ウエットティッシュ



大切な人の連絡先

その他、風呂敷やゴミ袋など